

2005 年度企画書

2005 年度の目標

2004 年度は、シネマタウン社会実験への参加やフリーマーケット、新潟チャリティーライブの企画などイベントの参加や企画をしました。しかし、ゴミ拾い参加者の増加や参加協力店への告知や報告などにおいて人手が不足、十分な活動を行うことができませんでした。今年度は、シネマストリートプロジェクトの活動をサポートしてくれるスタッフを増やすことを第一の目標として、継続した活動としていけるように組織作り、NPO 法人の取得を考えております。4 月よりシネマストリートプロジェクトの事務所兼カフェを運営することによりプロジェクトに関係する人の交流作り、資金作りを行っていきます。

また現在、地域通貨の発行の方法としてゴミ拾いの参加と円との交換による方法があります。今年度は、より環境に着目した活動をします。その中で割り箸やプラスチック容器の減量を目指した取り組みをします。また参加協力店より廃油を回収し、その廃油から石鹸を作ります。石鹸を地域通貨で購入できるなどの仕組み作りを行います。

活動計画

・ごみ拾いをします

大通りの歩行者天国が始まる 4 月から今年度の活動をはじめます。計 20 回を予定しています。2 週間に 1 回のペースで行います。(雨天決行)参加者に地域通貨を発行します。昨年度は大通りが中心でしたが、駅前まで拡大してごみ拾いすることを考えています。

・地域通貨参加店を増やします

現在の参加店はカフェや雑貨、映画館などを合わせて 34 店であり、さらに参加店を増やしていきたいです。そのためにお店との交渉をしていきます。使用率の向上のために、様々な業種のお店へ、参加店を増やしていきます。また、地域通貨が昨年以上に利用されるようにします。

・その他

地域通貨、シネマストリートプロジェクトの活動について、もっと知ってもらうために講演活動やパネルディスカッションに参加します。取材を受けたり、チラシなどによる宣伝をしたりしたいと思います。また、他の団体と交渉・協力をしてネットワークを広げていきます。また参加店同士の交流を増やすことにより、地域の「人」の活性化を図ります。

2004 年度 シネマストリートプロジェクト報告書

概要

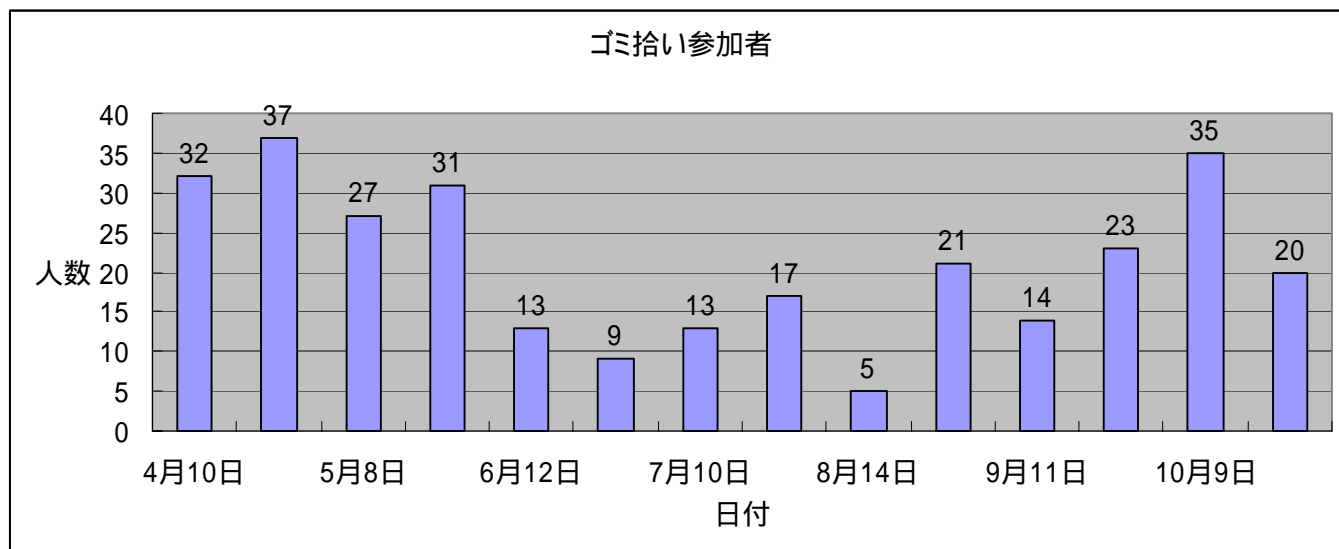
本企画書では、昨年 2004 年度のシネマストリートプロジェクトの活動報告と、2005 年度の活動について述べます。昨年度は多くの地域住民、飲食店、企業、組合の方々のご協力により盛岡の町を住みよい町として働きかける活動を行うことができました。2004 年は、年間を通したゴミ拾い活動、放置自転車撤去活動と伴に大通り歩行者天国でのフリーマーケット、携帯灰皿配布活動、歩行者天国でのファッションショー、シネマタウン社会実験への参加、新潟中越地震チャリティーライブをしました。この活動の重要性を改めて痛感し、

2005 年も継続して行っていきます。引き続きみなさまの温かいご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

昨年度の報告

ごみ拾いについて

このプロジェクトでは、ごみ拾いに対して地域通貨を発行してきました。計 15 回（1 回はスタッフのみ）のごみ拾いに延べ 280 名が参加してくださいました。10 月 9 日のゴミ拾いでは 25 名の JAICA のタイ派遣員のみなさまに参加していただきました。



利用率について

今年度の利用率は、17%でした。2004 年度の最終利用率が 24%でした。一昨年度より地域通貨の利用率が低下しました。

総発行額 59400C

使用額 10098C

利用率は、使用額 / 発行額 × 100 により算出しています。

自転車整備に関して

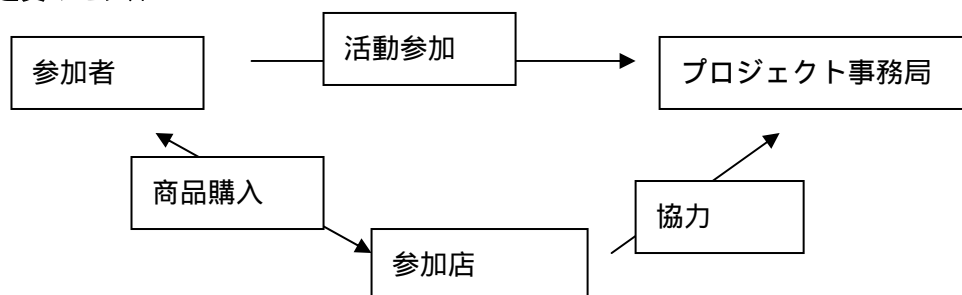
私たちは大通りの放置自転車の問題に対しても活動を行っています。この活動で今年 11 月 17 日に菜園交番、及び菜園防犯連絡協議会より感謝状をいただきました。年間で 1400 台の放置自転車撤去をすることができました。

大通り歩行者天国における活動

私たちは、大通り歩行者天国にて企画したイベントや、盛岡大通商店街協同組合とのイベント、他団体と共同でイベントを行いました。

地域通貨参加店の仕組みについて

地域通貨のモデル



参加者は地域通貨を利用して商品を購入します。例えば、参加者は、¥500 を事務局に寄付し、500c (c はシ

ネマストリートプロジェクトの地域通貨の単位 1c=¥1)を受け取ります。500c は、参加店で利用できます。コーヒー¥400 に対して、¥350 と 50c で払います。参加者は、全体的な財産は変わりません。参加者が地域通貨を利用することで、参加店が¥50 を事務局に寄付していることとなります。

参加店は、現在のサービスに対して各お店で柔軟に地域通貨の利用限度額を決めます。利用限度額を決める方法として以下の4つがあります。

1. 各商品に対して地域通貨の利用限度額を決める。
2. 全支払いに対して地域通貨の利用限度額を決める。
3. 特定の商品に対して利用限度を決める。
4. 地域通貨の利用時間帯を設ける。

1では、例えば¥400のコーヒーに対して¥350と50cの地域通貨を利用する。

2では、例えば全支払い金額が¥1000を超えた場合に、100cの地域通貨を利用する。

3では、例えばある商品は、地域通貨は利用できるが、ある商品は地域通貨が利用できないというように商品によって地域通貨の利用を決めます。

4では、朝の10:00から17:00時までは、地域通貨が利用できるが、それ以降はできない。というように時間帯によって地域通貨の利用を決めます。

このように各参加店は、地域通貨の利用を柔軟に決めることができる。地域通貨の利用目安として、商品の5%から20%が目安となります。

参加店が受け取った地域通貨は、以下のように利用します。

1. 物品・買い付けに利用する。
2. 雇用者の給料の一部として支給する。
3. 事務局に戻す。
4. 参加店がイベントを提案する

参考資料

シネマストリートプロジェクト <http://www.kasuli/cinema/>

シネマストリートプロジェクト 代表 鈴木圭史
事務局 盛岡市中央通1-11-15 村上第2ビル 1F
プランカフェフリースペース04
TEL 019-626-2004
kc@comm.soft.iwate-pu.ac.jp